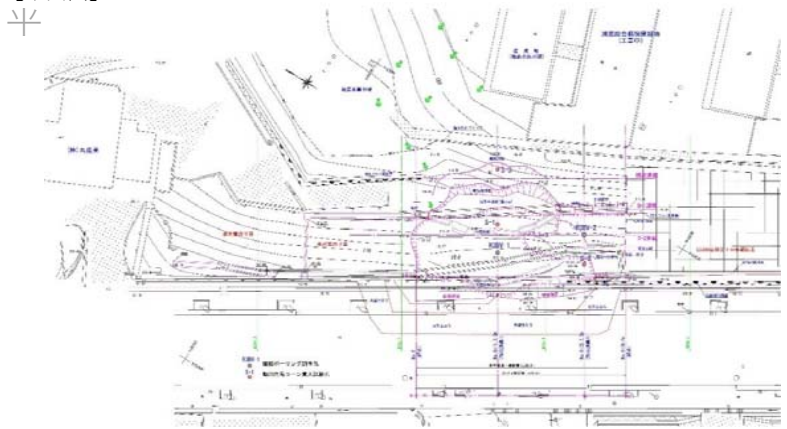
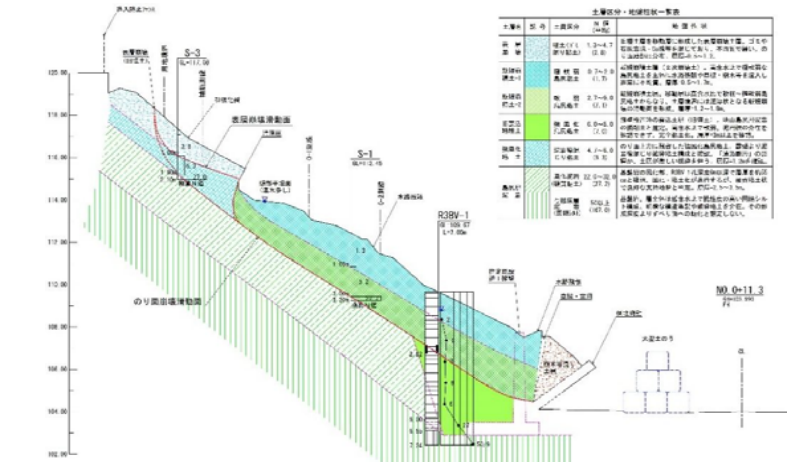


[様式1]

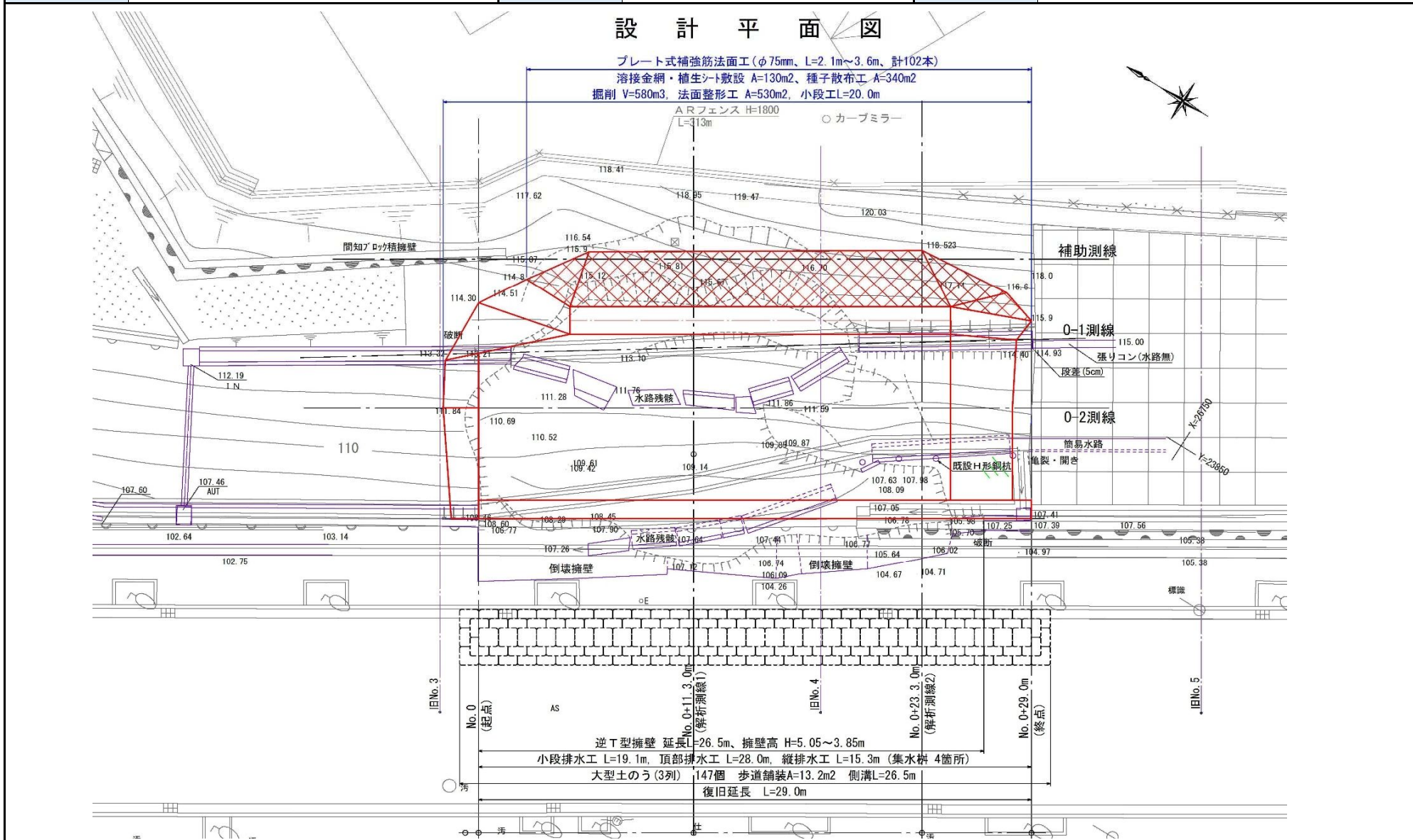
法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

位置番号	①	報告書No.	1	法高	高さ 15.0 m 3 段	対策工	抑止工	逆T型擁壁、間知ブロック積み擁壁
所在地	浦添市前田			延長	29 m		抑制工	簡易排水路
路線名	浦添西原線（県道38号線）			法勾配	崩壊前 1:1.25 ~ 1:1.40	完成年月	昭和55年以前と推定	
地形	崖錐地形、崩壊跡地（地すべり地）、台地の裾部、脚部浸食、集水型斜面、凸状尾根型斜面、鞍部丘陵地、段丘（丘陵地切土のり面）							
地質構造	島尻層泥岩小断層 粘土破砕帯							
湧水状況	湧水あり（工事掘削で堅固な塊状泥岩からを確認）							
周辺地山の状況（崩壊箇所との相違点や地形地質の違い）								
③ 法肩への流下水の集中状況（崩壊部：洗掘溝を形成・周辺地山：無し） ④ 法面と構造物の境界部の洗掘、割れ目、空洞等（崩壊部：排水路崩落・周辺地山：無し） ⑤ 構造物周辺の地盤の洗掘、沈下等（崩壊部：洗掘による小崩壊・周辺地山：無し） ⑥ 法面排水溝の確保、機能不能の発見（崩壊部：機能喪失・周辺地山：機能中）					⑦ 法面側方部、下方部からの湧水状況（崩壊部：有・周辺地山：不明） ⑧ その他：同様な地質地形の切土のり面。崩壊部左側（L=30m）は、間知擁壁（高2～3m）、H11年災で枠工（口300×300）とH形鋼杭（L=6.0m、@=2.0m）を追加、天端水路は押し潰れ変状中。右側（L=40m）は、地上高5m逆T型擁壁、のり面は未対策。			
【平面図】 					【地形地質構造】 ・斜面概要：島尻層泥岩を基盤岩とした丘陵地形（高位段丘）の南東向きの切土のり面、比高13～15m、勾配1:1.25～1.40、頂部は旧段丘面を改変して構築した平坦面（集水域）。同斜面の隣接区間では、H11年、H13年、H29年のり面災を発生。 ・地層構成：崩壊地では、頭部には「埋土層、層厚1.0m」、「強風化粘土（島尻粘土）層、1.2m」、滑落崖下方には「崩積土層（移動層）、2～3.5m」、「旧裏込め土層（擁壁背後）、3～6m」、「風化泥岩層」と「与那原層泥岩」を確認。移動層は強風化粘土～旧裏込め土層からなると推定。 ・地質的特徴：「浦添断層」の2次断層群区域にあたり、滑落崖には、強破碎泥岩（泥岩礫混じり破砕粘土主体）の露頭が確認され、地盤の破碎や不連続亀裂群等の介在をボーリングコアで確認。 【災害・変状概要（要因）】 2021年6月梅雨前線豪雨により誘発されたのり面崩壊。約30m連続した頭部滑落崖と両翼滑落崖を形成してその落差1.0～2.2mに達し、約3m程大移動により明瞭な崩壊ブロックを形成。既設「逆T型擁壁、地上高3～5m、幅20m」と「間知ブロック積み擁壁、高2.5m、幅7m」は倒壊。 ・事前対策工：なし ・崩壊・変状の発生状況： 2021年5月中旬に擁壁傾斜し始め、6月14日、15日豪雨（28mm～34.5mm/h）に伴ってのり面崩壊が発生し、傾斜した擁壁が倒壊。 ・素因・誘因： ・梅雨前線豪雨（頂部平坦面）による大量地表水発生・流下に起因して洗掘・小崩壊を誘発し小段端水路が崩落。（最大誘因） ・斜面基盤岩を構成する島尻層泥岩には、構造的弱層が多く介在し、岩質劣化、土質強度の低下が発生素因。 【被災後の対策工】 ・設計思想：①崩壊土層表層部（有機物等混じり）を1m程排土除去し、排土後の法面安定と擁壁高の低減を図る。②復旧擁壁の裏込め土の法面を安定勾配（粘性土1:1.80）に形成。③頭部急傾斜面は用地制限のため、現状維持の為の工法を採用。 ・抑制工：排土工（樹木や既設Co残骸混じり土除去） ・抑止工：末端部：突起付き逆T型擁壁工、頭部：鉄筋挿入工			
【断面図】 								

[様式2]

法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

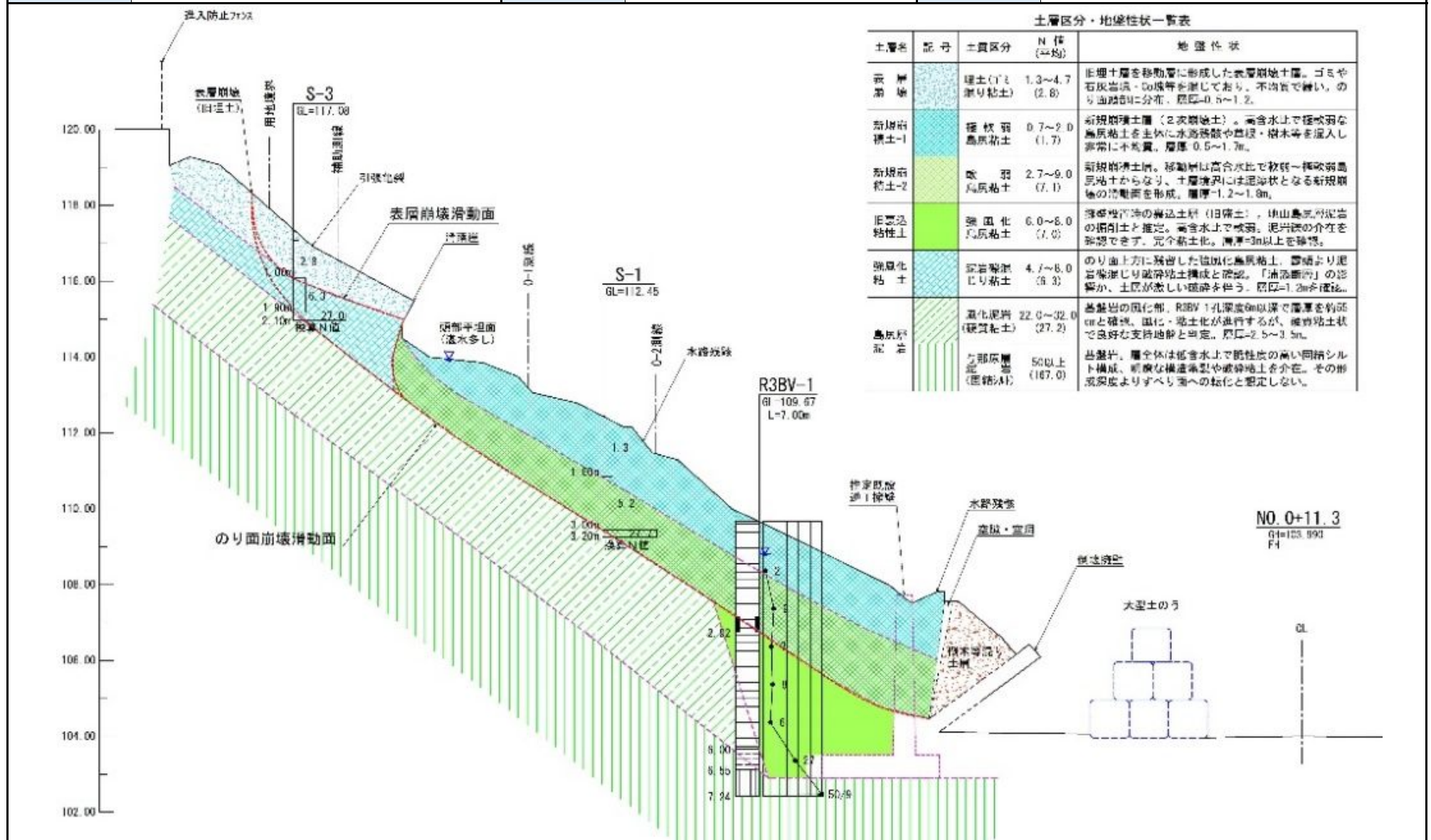
位置番号	①	報告書No.	1	法 高	高さ 15.0 m 3 段	対策工	抑止工	逆T型擁壁、間知ブロック積み擁壁
所在地	浦添市前田			延 長	29 m		抑制工	簡易排水路
路線名	浦添西原線（県道38号線）			法勾配	崩壊前 1 : 1.25 ~ 1 : 1.40	完成年月	昭和55年以前と推定	



[様式2]

法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

位置番号	①	報告書No.	1	法 高	高さ 15.0 m 0 段	対策工	抑止工	逆T型擁壁、間知ブロック積み擁壁
所在地	浦添市前田			延 長	29 m		抑制工	簡易排水路
路線名	浦添西原線(県道38号線)			法勾配	崩壊前 1：1.25 ～ 1：1.40	完成年月	昭和55年以前と推定	

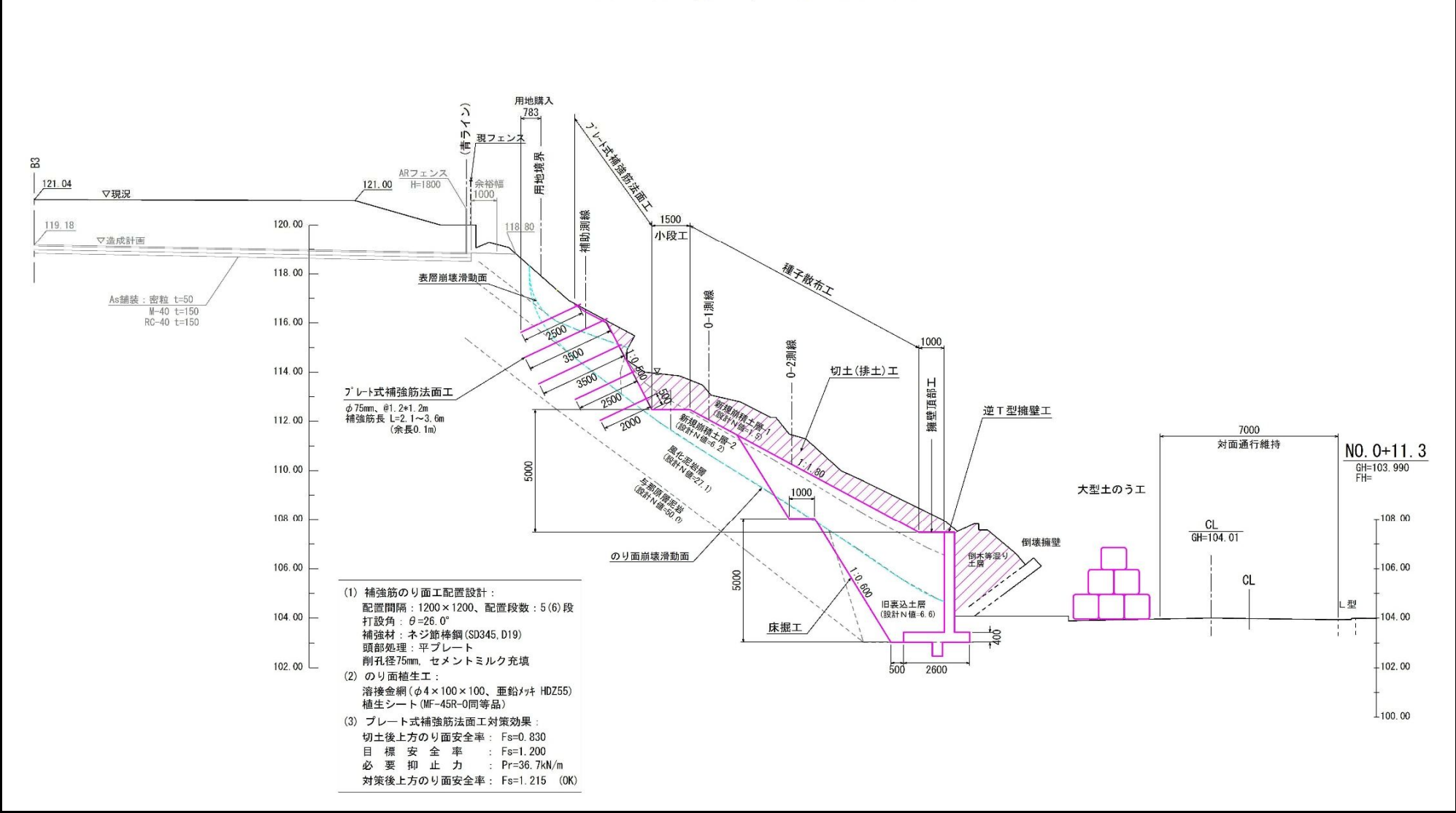


[様式2]

法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

位置番号	①	報告書No.	1	法 高	高さ 15.0 m 0 段	対策工	抑止工	逆T型擁壁、間知ブロック積み擁壁
所在地	浦添市前田	延長	29 m	法勾配	崩壊前 1 : 1.25 ~ 1 : 1.40		抑制工	簡易排水路
路線名	浦添西原線(県道38号線)				完成年月	昭和55年以前と推定		

対 策 標 準 断 面 図



[様式3]

法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

位置番号	①	報告書No.	1	法 高	高さ 15.0 m 3 段	対策工	抑止工	逆T型擁壁、間知ブロック積み擁壁
所在地	浦添市前田	延長	29 m	法勾配	崩壊前 1 : 1.25 ~ 1 : 1.40		抑制工	簡易排水路
路線名	浦添西原線(県道38号線)				完成年月	昭和55年以前と推定		

